





審査結果報告書

2022年 2月 / 日

主査	氏名	青山直善	
副査	氏名	石倉健司	
副査	氏名	鈴木隆浩	
副査	氏名	高橋倫子	

1. 申請者氏名 : DM18025 前村 健治

2. 論文テーマ :

非虚血性心筋症患者に認める虚血様心電図所見に関する臨床研究

3. 論文審査結果 : 2022年2月1日、副査(石倉健司、鈴木隆浩、高橋倫子)、主査 青山直善で学位審査を実施した。主論文の主旨を以下に記す。拡張型心筋症(DCM)患者の心不全加療経過中の心電図に心筋虚血所見を認めることがある。しかし非虚血性心筋症患者におけるこの心電図所見の臨床的意義は明らかにされていない。そこで入院中の心電図に虚血所見を認め12か月後までに正常化した患者を「一過性群」、虚血所見が持続した患者を「持続性群」、経過中に虚血所見を認めなかった患者を「無群」として、初回入院から24か月後までの心電図および心エコー所見を3群間において追跡評価した。追跡期間である24か月後までの間に左室駆出率10%以上の増加および左室拡張末期径の10%以上の減少を左室逆リモデリング(LVRR)と定義し、上記3群においてLVRR、複合心イベント(心不全再入院、心室性不整脈および心血管死亡)発生率を評価した。「一過性群」の91%にLVRRを認め有意差をもって他群より高率であり、「一過性群」の5%に複合心イベントを認め有意差をもって他群より低率であった。これにより、DCM患者の一過性の心筋虚血心電図所見は、予後良好、左室機能改善の予測因子であることが明らかになった。DCM患者の治療方針決定に有用となる新知見を含んだ内容で、学位論文としてふさわしい研究であると判断した。